

改定にあたって

グランドデザインは、改定委員会やエリアワークショップにおいて多くのメンバーにより様々な議論を行い、30年後の中長期を展望したまちづくりの方針を示したものであり、市が策定する行政計画ではありません。行政のみならず、地権者や建物オーナー、事業者やNPO、大型店や地元商店会及び地域住民、そして来街者（以下、「ステークホルダー」という。）といった吉祥寺のまちづくりに関わるすべての人の“コンセプトブック”となることを願って策定されました。

旧グランドデザインは、平成19年3月に策定されました。これまでに、吉祥寺の顔である駅舎の改良や南北自由通路（はなこみち）、公共用歩廊（^{ひさし}庇）、共同荷さばき集配送場の整備や大型店舗の新規出店、武蔵野市観光機構の設立、まち案内所の開設等、様々なまちづくりが進められてきた一方で、近年まちに関わる人たちが危機感を感じていることも事実です。

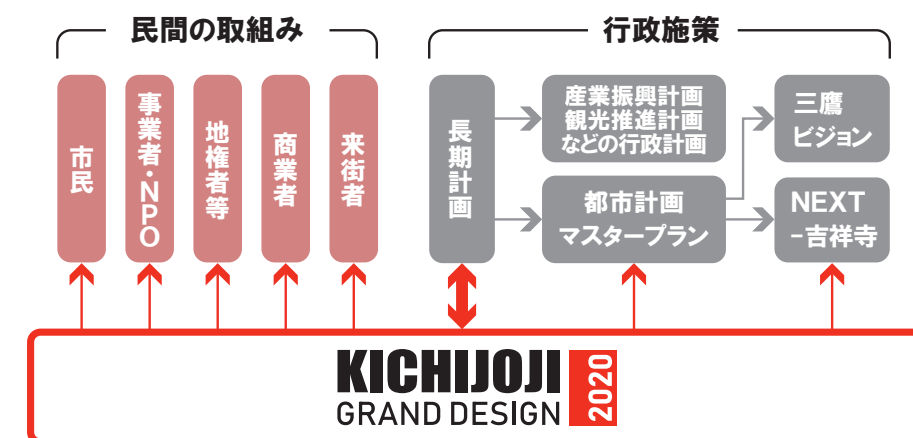
かつて吉祥寺を繁栄に導いた「回遊性の高さ」や「歩く楽しみ」に着目したまちづくりの考え方は、今日の吉祥寺の魅力の礎であり、今なお多くのまちで実践されているまちづくりを先取りしたものでした。

こうした吉祥寺の財産とも言えるまちづくりの考え方を継承するとともに、10年という歳月の移り変わりと吉祥寺を取り巻く社会の潮流を、さらなる発展への好機と捉えて、新しい吉祥寺のまちづくりへとつなげるために、グランドデザインの改定を行いました。

吉祥寺グランドデザイン改定委員会

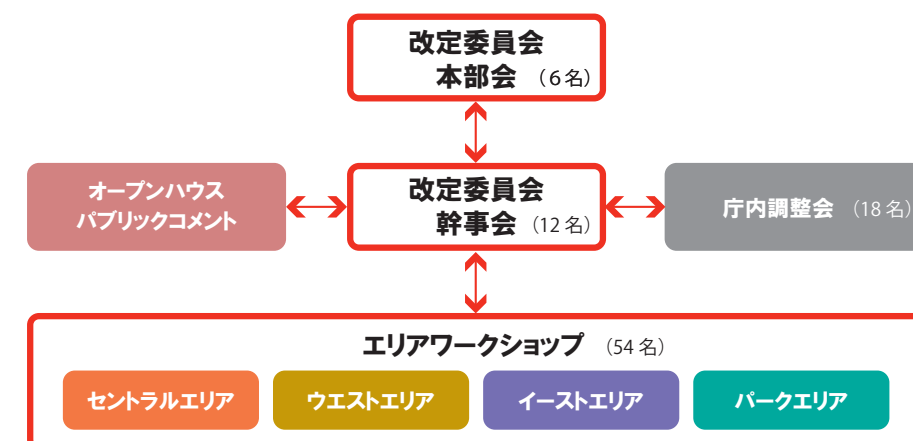
改定の目的・視点

- ① 様々な問題点・課題や、消費行動の多様化等の社会潮流に対応するため。
- ② 今後30年の方向性を定め、吉祥寺の将来像をこれまで以上にわかりやすいものにするため。
- ③ 当事者意識をもってまちづくりを推進するためのよりどころとなるよう、まちづくりの方向性を示す必要があるため。



改定体制

今回の改定においては、多様な主体による対話・議論を行うことを狙い、策定体制を刷新し、吉祥寺のまちづくりに関わりの深い、内外のメンバーによる複数の会議体で改定を行いました。



吉祥寺グランドデザイン改定委員会

KICHIJOJI GRAND DESIGN 2020 概要版

1 将来ビジョン

コンセプト

〇〇したくなるまち 吉祥寺

吉祥寺ならではの個性的で魅力的な空間とにぎわい。
それは、住まう人、訪れる人、みんなの思い、願いを叶えることのできる、
幅広い受容力と懐の深さに支えられた多様性あふれるまち。
「〇〇するなら吉祥寺」「吉祥寺と言えば〇〇」・・・
そんな各人各様の思い・出来事・情景が積み重なることで、
吉祥寺に対する愛着を育み、吉祥寺にまた来たくなる動機を呼び起こします。

まちづくりの テーマ

ヒト・モノ・コトに
出会い、発見する

かわいせい
界隈性

歩いて楽しむ

心地よく過ごす

かわいせい
界隈性 とは...

新しいものと古いものとが互いに良
い関係で共存し、生活感あふれる雰
囲気を感じさせる個性的なまちなみ
で、地域が多種多様な人々によって
にぎわい、活気あるコミュニティを
形成している状態のことです。

2 テーマ別の取組み

ヒト・モノ・コトに出会い、発見する

素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見したり・・・

“ワクワクさ”や“何か秘めているという期待感”が充満する、出会いと発見が溢れているまち。

買い物、芸術・文化体験、ビジネスチャンスの発掘等、様々な来街目的を創造・発信し続け、新しい
驚きと感動を体験できます。

再認識・再構築

新しい視点・魅力

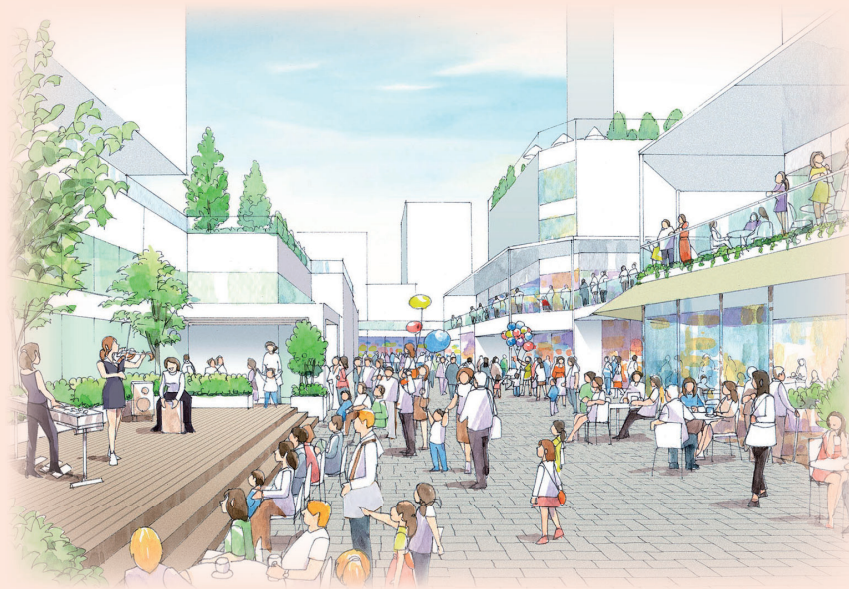
個性的な店舗が存続できる環境づくり（吉祥寺の商業文化の継承）
界隈性・スケール感の継承
まちの歴史・遺伝子の再認識・再発見
住宅との調和・共存
国内外からの来街者が発信したくなるコンテンツに出会いやすい環境整備
4つのエリアの個性発揮と連携
夜に人が居る環境づくり
新たな文化拠点の形成
新しい就業環境整備（働き方改革等に即した新たな就業拠点の形成）
多様な賃料の床を提供

3 エリアごとのまちづくり

セントラルエリア

～時代に柔軟に対応しながら、
魅力的なまちであり続ける～

高度成長期における大々的な基盤整備と
それに誘発された民間開発によって繁栄
しましたが、借地を中心に建物更新が進
まず、エリア全体で老朽化が進行してい
ます。
多様性を失いつつあるテナント構成、建
物上階の空室率が増加しています。



老朽建物の補強・
リノベーション・更新

バス交通や物流と歩行者の
棲み分け、未整備道路の
早期完成

ウエストエリア

～閑静な住宅地と共存する
魅力的な通りと界隈づくり～

大々的な財政投入・資本投下された訳
でなく、住宅地の通り沿いに自然発生的
に発展。ヒューマンスケールの魅力的な
界隈が形成されました。
一方で、来街者・生活交通・荷さばき車
両の増加による歩行環境・住環境の悪化
が進行しています。



住宅と個性豊かな商業との
調和・共存

歩行者優先の景観整備と
道づくり

快適な居場所づくり

歩いて楽しむ

吉祥寺がこれまで実現してきた回遊性の高さを活かし、何よりも歩行者が優先され、歩き、とどまることで魅力を感じることができるまち。

バスやタクシールートの工夫・交通規制・基盤整備等によってグランドレベルに徹底して歩行者が最優先される交通環境を整えます。

地下利用も含めた複層利用や電線類地中化等の推進によって、安全・快適な歩行環境を生み出し、にぎわいのある通りを巡り歩いて楽しむことができます。

再認識・再構築

新しい視点・魅力

交通結節機能の再編による交通環境改善

物流の再編

交通規制による車両乗り入れ制限

駐車場の外周道路への集約配置

案内・サインの整備・充実

電線類地中化による歩行環境整備

滞留空間の確保

駅から井の頭公園までの道のりのデザイン・整備

新たな名所・街並みの創出

心地よく過ごす

子育て世代、高齢者、外国人をはじめとしたすべての人々に優しく、生活者も来街者も安心して快適に過ごせる景観やバリアフリーにも配慮したまち。

まちなかの要所には、居心地の良い緑あふれるオープンスペースやベンチ等の憩いの空間、オムツ替えや授乳のスペース、またきれいなトイレがあり、長時間の滞在を可能にします。

災害時のための帰宅困難者が集まる空間や多言語での情報発信システム等の来街者対応を含め、確かな防災力に支えられて安心できます。

再認識・再構築

新しい視点・魅力

人と人とのつながり

建物の補強・リノベーション

条件に適した建物更新等

バリアフリーの徹底

多言語での情報発信

災害時の安全対策・帰宅困難者への対応

長時間の滞在を可能にするしかけづくり

緑の創出・景観への配慮

街全域での快適で切れ目のないインターネット環境の整備

イーストエリア

～新たな芽を育てながら、
まちの質を向上～

環境浄化の継続的な取組みが進行中でエリアの環境は徐々に改善されてきましたが、今後は人の流れを誘引する新たな目的性が求められます。

一方で、吉祥寺シアターの立地や音楽スタジオの集積等、新たな芽が育ちつつあるものの、まだまちのポテンシャルを活かしきれていません。



新たな来街目的を誘発する
起爆剤の投入

鉄道線路をまたぐ
新たな南北回遊動線の創出

パークエリア

～唯一無二の絶対的強み
「井の頭公園」を徹底的に活かす～

井の頭公園へ向かうメインアプローチとして、閑静な住宅地を通り抜ける個性的な界隈が形成されています。

しかし、そこに至るまでの駅前のインフラが脆弱なことから、まだまだ井の頭公園の存在を十分に活かしていません。



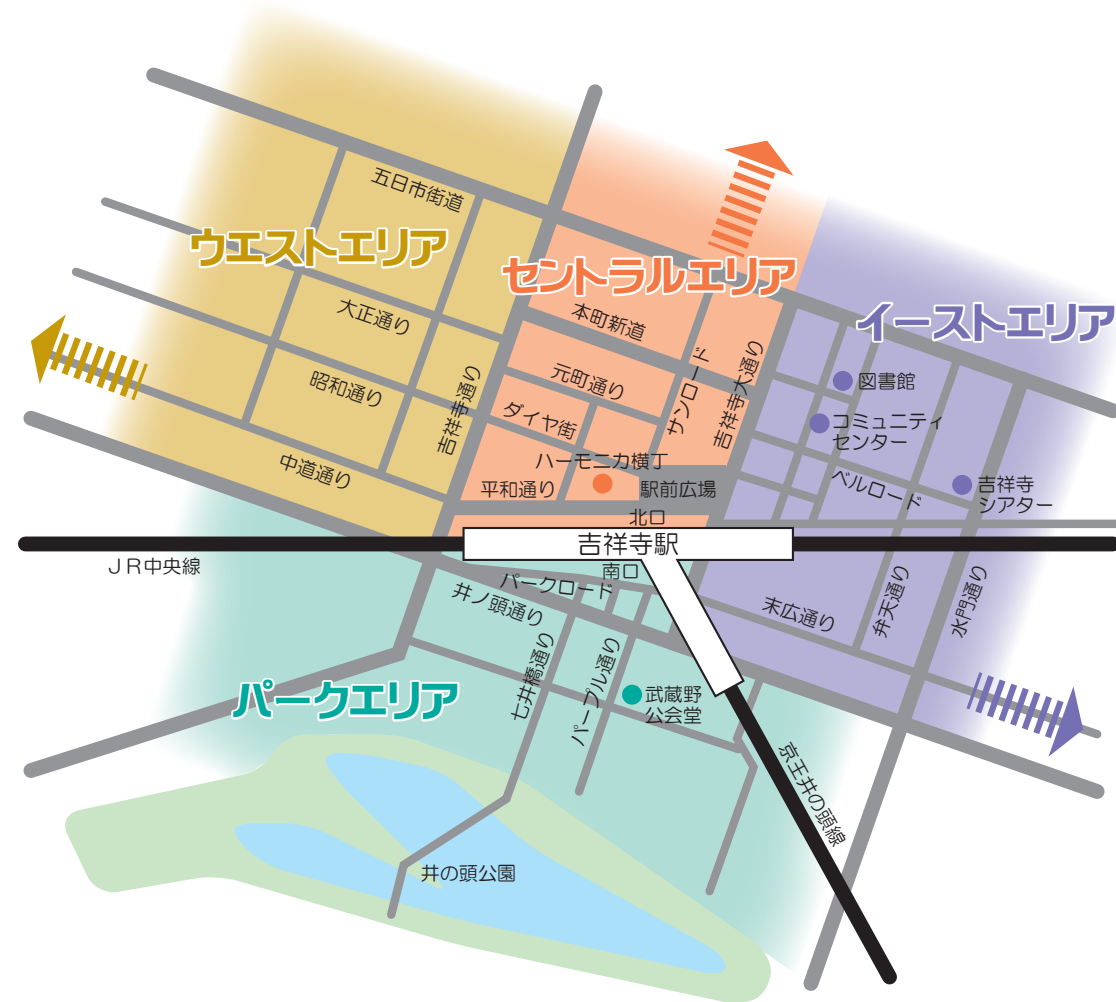
南口駅前の顔づくり

公園周辺の住環境保全と
公園アクセスのバリアフリー化

南口駅前および
周辺一帯の市街地再編

対象区域、エリア区分

吉祥寺駅を中心におおむね半径 500 メートルの範囲内を対象としており、さらに4つのエリアに区分しました。また、各エリアの外周部については、にぎわいが拡大傾向にあります。



吉祥寺グランドデザイン改定の背景等

吉祥寺の強み・良さ

交通環境の改善、中央線の高架化等により、商業地としてのポテンシャルが飛躍的に増大。それを受けて大型店舗が次々と開店し、成長を遂げました。回遊性とスケール感を大切にした当時の考え方は、今なお、多くの人々から支持を受けています。

社会の潮流

ネット社会の進展によって、消費行動が変わる！

テレワークの進展等によって、生き方・働き方が変わる！

新たな価値基準や意識の改革によって、社会が変わる！

吉祥寺の問題点・課題

他の駅周辺の商業・業務拠点としての台頭もあり、更なるまちの魅力が必要となっています。また、オーバーツーリズムや荷さばき車両等の影響により、歩行環境が悪化し、安全に滞留できる空間も減少してきているという課題も、徐々に浮かび上がってきています。

4 吉祥寺グランドデザインの推進に向けて

グランドデザインが見据えているのはこれからのまちづくりです。グランドデザインの策定が到達点とならないように、まちづくりを進めるための「仕組みづくり」が必要です。ここに、グランドデザイン推進に向けた“3つのステップ”を提案します。



STEP-1 一歩踏み出してみよう！

市街化が進んだ吉祥寺のまちづくりを進めるには、行政だけの力ではできることに限界があります。コンセプト「〇〇したくなるまち 吉祥寺」の実現には、ステークホルダーの相互協力と連携が欠かせません。ステークホルダーが、当事者意識をもってまちづくりに参加することが何よりも大切です。

STEP-2 アイデアを実行してみよう！

様々なまちづくりの方策のうち、すぐに行動に移すことのできる取組みについては、目的とステークホルダーの役割を明確にした上で、順次実践、チャレンジしながら可能性を試してみることも必要です。グランドデザイン改定の過程において高まりを見せたまちづくりの機運が冷めないうちに、各エリアが抱える課題解決につながる社会実験の実施を視野に入れて、様々な関係者の連携のもと試行していくことが求められます。

「交通」に関する社会実験

- ① バス・タクシー交通
- ② 交通規制
- ③ 物流システム

「居場所づくり」の社会実験

- ① 公共空間の利活用
- ② 安心できる居場所づくり

STEP-3 次につなげよう！

行政の取組みとしては、市が策定する「長期計画」や「NEXT- 吉祥寺」をはじめとする各種行政計画への反映が望まれます。また、民間の取組みとしては、建物の更新やリノベーション、共同化に加え、事業者が実施する各種プロジェクトやまち全体で開催されるイベント等への反映が望まれます。行政・民間あるいはソフト・ハードに偏ることなく、このグランドデザインで示された将来像を、着実にまちづくりに、そして次の世代にもつなげていくことが大切です。

グランドデザイン改定のあゆみ（改定委員会等の配布資料及び議事録等）について、市ホームページに掲載しています。
(http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/shingikai/shingikai_kaigiroku/kichijoujimachizukuri/1023975/index.html)

市ホームページへは二次元コードからもアクセスできます。



吉祥寺グランドデザインの改定

検索



吉祥寺グランドデザイン 2020

令和2年4月

事務局：武蔵野市 都市整備部 吉祥寺まちづくり事務所